

令和5年度 第1回 AIによる下水処理場運転操作 デジタルトランスフォーメーション(DX) 検討会 議事概要

1. 日 時 令和5年9月7日(水) 10:00~12:00
2. 場 所 (公財) 日本下水道新技術機構 会議室および web 会議

【議事概要】

事務局から配布資料について説明が行われた後、委員の意見を伺った。

委員からの主な意見は以下のとおりである。

○AIの概要と人との役割分担について

- 現在 AI で取り組まれている主なものは AI によるガイダンスではないかと思われる。そのため、本検討会も同レベルを対象に議論することが適切と思われる。将来像として AI による複数系列の水処理や水処理+汚泥処理の自動制御運転の方向性を示すことも考えられるが、明確な将来像を示すことは困難であり、現実的な段階を議論した方が良い。
- AI と人との役割分担という議論の中では、ガイダンスや自動制御といった出力方法をどの様に使用するか、といった切り口で検討した方が良い。
- 脅威がないと新しい技術の普及は難しく、AI によるガイダンスが何をメリットとして普及するのか疑問に感じる。メリットを示すことで、今後のあり方を認識できるようになるとと思われる。

○AI 導入及び運用に必要な運転管理データが容易に取得できる環境整備 (ベンダーロックインへの対応等) について

- 既設メーカーしか契約できないような状況は好ましくなく、様々なメーカーに携わっていただきたい。既設メーカーしか対応出来ないことや、コストが高くなってしまいうという問題がある。このような状況となっている要因については、様々な理由が考えられるので、自治体へのアンケート等の内容、質問の仕方について、工夫が必要である。
- 自治体はベンダーロックインを知らない可能性があり、発注者側に認識してもらう上でも、アンケート等を進めていただきたい。
- AI へのデータ取り込みでは、維持管理の生データではなく、データの加工操作が必要であることから、データの活用方法に向けた議論も必要だと思われる。

以上